

# 師走 愛南文芸

## みなみうわ俳句会

名月やグラスの中に見え隠れ  
あれこれと事の運ばぬ秋灯下  
忘れゆく生家の間取り実南天  
航跡の寄する波音秋の昼  
訊きし名をはや忘れおり草の花  
白木槿蒼も添えて佛壇に  
鬼ヶ城四百年の秋の声

竹村 勝利  
宮下 峰月  
濱 初榮  
中川千代子  
木村 智子  
若林八重子  
田口ひさ子

## 御荘俳句会

秋嶺の輝く風車空の青  
石磴を駆ける少年息白し  
一葉落つ言葉少なき日なりけり  
朱の色は橋鮮烈や冬に入る  
秋の暮風の高さにジャズ流れ  
炬開きや新調の帯きゆつと結び  
檳榔子  
申年の姑は熟柿が好きだった  
萩叢の風の形に揺れており

尾崎 松恵  
加洲勢津子  
山本 金子  
吉田 朝子  
三好ミキエ

## はじめまして。赤ちゃん。

10月受付分(敬称略)

地区名	子の名	保護者
-----	-----	-----

## ご冥福をお祈りします。

10月受付分(敬称略)

地区名	亡くなった方	享年
-----	--------	----

熟しても鳥親しまぬ異国柿  
柿の木もつけて手離す農地かな  
焼魚に青き香を解く柚子の昼

濱野 康子  
吉田モミエ  
山口 和子

栗を剥く夜なべの母の丸き背な  
戦中派諸蔓料理を戦後派に

山口 薫  
若林八重子

空海の空へ秋めく檳榔樹  
水うまし柿またうまし子規の郷

若山 節子  
井上 論天

## 西海俳句会

芋掘りし日を思いつつ昼風呂に

利根早智江

「介護予防」

バタカラの口腔体操いわし雲  
シルバー車の世話になりつつ秋惜しむ

吉田 朝子  
吉田 笑代

子も孫も身近に住みて敬老日  
一尋の鰯釣る古老秋日和

浜木チズエ  
吉田 弘定

## 新くさの葉短歌会(はこべ)

寺を守る馴れぬ仕事に苦勞ありしも継ぐ嫁も居て幸なりき  
入院の三日をつきそいくれし子に松山は遠いねとふとつばやきぬ  
白樺に風吹き渡る摩周湖のコバルトブルーの水の深さよ  
久々に歩む野徑に空よりも濃き藍に咲く露草の群れ

市川コマエ  
長田ハル子  
西崎 文恵  
前田 充



※上記情報は、広報誌掲載に対して、ご家族等に同意をいただいております。